

生野区の 都市景観資源紹介



生野区の都市景観資源

大阪市では、生野区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成28年3月18日に18件を都市景観資源に登録しました。

おかちやまこぶん

1. 御勝山古墳



◆所在地

生野区勝山北3丁目16番、勝山南3丁目3番

◆概要

もとは岡山と呼ばれ、元和元年(1615年)夏の陣の大坂落城のとき、徳川秀忠がここで戦勝の宴を催したことから御勝山の名で知られるようになった。

古墳時代中期の5世紀前半に造られた南北112m、東西55m、高さ約8mの前方後円墳で現在は前方部が道路(勝山通)と御勝山南公園になっており、後円部を残すのみである。市内では、茶臼山古墳(天王寺区)と帝塚山古墳(住吉区)と並んで重要な史跡の一つとなっている。御勝山南公園内には、歌人で万葉学者であり文学博士でもあった折口信夫の歌碑も建てられている。



しゅんとくかいどうどうひょう2き にししゅんとくじそうどう

2. 俊徳街道道標2基と西俊徳地藏堂



◆所在地

生野区勝山北4丁目10番

◆概要

生野区勝山北4丁目に西俊徳地藏堂があり、等身大の座像石仏が祀られている。説明板には、俊徳丸が四天王寺へ参る際、清い流れの平野川のほとりで休憩したとある。この地藏堂横には四天王寺南門からほぼ真東へ延びる俊徳街道の道標が二基ある。街道を東へ進むと東俊徳地藏堂があり、尊像は堂内奥に安置されており、立派なお姿は拝めないが、彫刻様式から室町末期の作と思われ、地元の人々の手により手厚く祀られている。



しゃりそんしょうじ

3. 舍利尊勝寺



◆所在地

生野区舍利寺1丁目2番36号

◆概要

正しくは、南岳山舍利尊勝寺。現在の本尊は、聖観世音菩薩である。約1400年前、用明天皇のころ、生野長者と呼ばれる長者に言葉の不自由な子が生まれた。長者が、四天王寺伽藍を建立するために来ていた聖徳太子にすぎると、太子はその子に向かい「わたしが前世に預けた3つの仏舎利を返しなさい」といった。すると3つの仏舎利を吐き出し、それからは話せるようになった。太子はそのうち、ひとつを法隆寺に、ひとつを四天王寺に、残った1つを長者に渡し、長者がお堂を建てて、この仏舎利を奉ったのが、舍利寺の起源と言われている。

なかこうやかいどう そ

いえな

4. 中高野街道沿いの家並み



◆所在地

生野区巽中4丁目、巽南3丁目

◆概要

中高野街道は、京街道守口から分岐して大阪狭山市で西高野街道に合流する長大な街道である。途中、古くからの町々を通過しており、巽小学校から巽神社付近の沿道には、古い民家や念仏堂、碑がみられるなど、落ち着いた佇まいの家並みとなっている。

しきない よこのじんじゃあとち でん よこのつつみあと

5. 式内 横野神社跡地 (伝 横野堤跡)



◆所在地

生野区巽西3丁目9番

◆概要

この社地は、もと河内国淡川郡大地村の神社で、古来より印地之宮または西之宮と呼ばれ、平安時代に編纂された神名帳にその名を記された延喜式の古社であった。御祭神は十一代垂仁天皇の皇子印色入日子の命で、社地は元々三百坪の境内であった。

その起源は、日本書紀仁徳天皇十三年の條に「冬十月横野堤ヲ築ク」と云う記述があり、昔この付近を流れていた橋川(古平野川)の氾濫を防ぐため巨大な堤防を築かれたと云われ、その堤の安全と河水の緩流を願って造営されたのが当社の始まりといわれている。

江戸時代前期、社殿の倒壊を受け、現在の巽神社の境内に御祭神を移したことがあった。享保年間には、国学者・並河誠所が当社地を調査し、由緒ある旧社である旨を報告した。これにより、享保16年公儀のお許しの下、村民によって再興された。以来、宮座を組み、神燈を守ってきたが、明治40年の神社合祀令により巽神社に合祀され廃社となった。正面の碑は大正8年宮座横野講の人々により建立されたものである。